

WE HAVE A DREAM

千葉県立松尾高等学校 SGH 通信 第2号 6月5日発行



這是什麼 (これ、何ですか?)

台湾國立秀水高級職業工業學校との交流会

平成 29 年 5 月 16 日、台湾国立秀水高級工業学校から、生徒 27 名・引率職員 3 名の合計 30 名が本校を訪れ、授業参加や昼食会、交流会などを行いました。

台湾から修学旅行で日本を訪れ、高校などで体験学習や交流をする機会が年々増加しています。昨年、千葉県内では、37 校 1453 名の学生を受け入れています。今年はさらに増加し、5 月だけで 11 校 383 名の受入を行っています。

「日本の高校で授業を受けてみたい」という彼らのため、こんなことをしました。

- 10:00 来校
- 2 時間目 校長挨拶と教頭からの学校説明
- 3 時間目 介護福祉の授業見学と弓道体験
- 4 時間目 G A I の授業に参加、日本人生徒とのペアワーク
- 昼食会 G A I 生徒に生徒会役員が加わり、



総勢 70 名での昼食会

- 5 時間目 1C の芸術 (音楽・美術・書道) と 2A の選択数学に、授業参加
- 6 時間目 1A・2D の英語表現に授業参加
- 交流会 昼食会と同じメンバーで交流会
両校代表生徒の挨拶や、プレゼント交換、記念撮影 (本校からのプレゼントは、消せるボールペンと日本のカワイイお菓子セット)
本校生のコミュ力は up したでしょうか?



日本が、500 人の松尾高校生だけだったら

平成 29 年 5 月 22 日、全校生徒の参加による第 1 回 SGH 専門家講演会が本校体育館で行われました。講師は、2008 年末「年越し派遣村」村長として活躍され、社会活動家として著名な法政大学教授の湯浅誠先生です。先生の講演は、ペアワークを取り入れながらの「主体的・対話的で深い学び」に終始しており、生徒の関心が途絶えることない 1 時間半でした。

講演の内容も、現実社会を直視したものばかりで、学校の授業では、取り上げる事がなかなか無いような深いものばかりでした。特に、日本の統計数を 500 人の松尾高校生の数字で取り上げていくクイズ形式のお話は、生徒全体が考えを深めていくための、とても貴重な体験学習でした。SGH 事業では、生徒の皆さんがグローバルな視野に立ち、社会に主体的に働きかける力を伸ばす切っ掛けとなるような講演会を企画していきます。

『Super Girl HANAちゃん』は、先生方の体験談をもとに異文化理解について考えるマンガです。実験を題材にしていますが、創作が含まれることをご了承ください。



第2回「恐怖！ホビロン」の巻



今回はグローバル推進部長、峰島先生の体験でした。先生の一言「言ったことばに責任を取れる人間になろう。」